



令和4年7月26日

報道関係者各位

独立行政法人国立科学博物館

企画展

「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」 開催のお知らせ

国立科学博物館（館長：篠田 謙一）は、2022(令和4)年8月5日(金)から9月4日(日)までの期間、下記のとおり、企画展「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」を開催いたします。

科学・技術・産業にまつわる近現代の資料は、古代の資料に比べると保存の意義が低く思われがちですが、資料が残されていないと、社会に影響を与えた科学・技術の歴史が後世に正しく伝わりません。科学や技術の足跡を示す多種多様な資料を残し伝えていくために、国立科学博物館では、資料の保存状況を調査し、戦略的な保存に向けた課題を考えるための研究を推進してきました。

本展では、調査の過程で見えてきた資料の保存プロセスや、興味深い知見を紹介します。

記

【会場】国立科学博物館（東京・上野公園） 地球館2階 常設展示室内

【会期】2022(令和4)年8月5日(金)～9月4日(日)

【開館時間】午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで。

【休館日】※会期中は毎日開館いたします。 ※会期等に変更となることがあります。

【入館料】一般・大学生：630円（団体510円）（税込）、高校生以下及び65歳以上無料
※本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます。団体は20名以上。

【入館方法】新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を実施しています。

※入館には、オンラインによる事前予約が必要です。

※入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。

※入館方法の詳細等については、当館ホームページの予約サイトをご覧ください。

<https://www.kahaku.go.jp/news/2020/reservation/index.html>

【主催】国立科学博物館

【協力】気象庁地磁気観測所、国立天文台野辺山宇宙電波観測所、多久市郷土資料館、
東京海洋大学附属図書館、東京大学宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設、
東京農工大学科学博物館、北海道大学総合博物館

【展示概要】別添の本展チラシ参照

【お問合せ】国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL：03-5814-9840、9883、9887、FAX：03-5814-9898、E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

【本展監修者】



産業技術史資料情報センター長

前島 正裕（まえじま まさひろ）

専門は電気技術史。

特に幕末・明治初期において、歴史に埋もれた人物や資料を掘り起こしています。また各研究機関などに残された、散逸の可能性のある資料の調査や、工学系学会における調査・顕彰活動などを通じて、資料の保全に努めています。

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「各種手続き・報道関係資料」→「写真の貸出」からお申込みできます。
(<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



①企画展「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」ポスター



②地電気自記器
(所蔵：国立科学博物館)



③カミオカンデで使用された光電子増倍管（初期型）
(所蔵：国立科学博物館)



④日本の最初期の鉄道に使われたレール
(英国 Darlington Iron社製、1870年)
(所蔵：国立科学博物館)



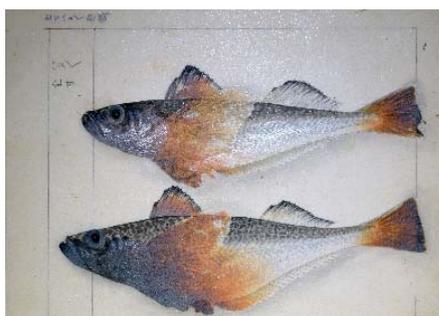
⑤30cmカセグレンアンテナ
(所蔵：国立天文台野辺山宇宙電波観測所)



⑥吊り磁石式変化計
(所蔵：気象庁地磁気観測所)



⑦現存する国内最古のマリモ標本
(所蔵：北海道大学総合博物館)



⑧明治時代の絵師立花宇一の描いたハタハタ
(所蔵：国立科学博物館)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介目的のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は、確認のため、下記担当まで校正原稿をお送りください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈お問合せ先〉 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 企画展担当
電話 03-5814-9840、9883、9887 FAX 03-5814-9898
E-mail: kikakuten@kahaku.go.jp 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

Special Exhibition

Various Stories from Artifacts of Scientific, Technological, & Natural History
—Thinking about the Significance of the Preservation of
Scientific Objects with Their Provenance—

残して伝える！

企画展

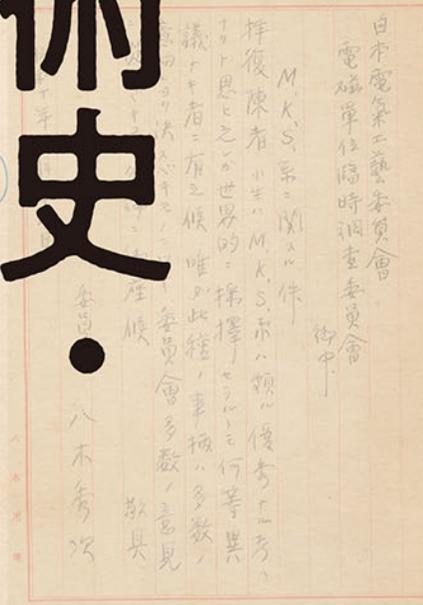
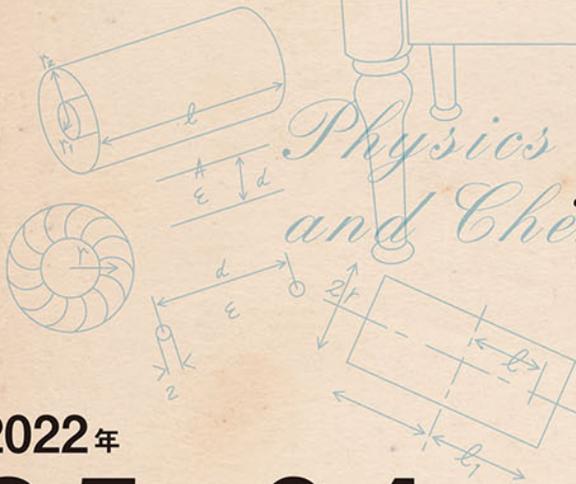
科学技術史

自然史資料が語る 多様なモノガタリ

Space and
Earth Sciences



Physics
and Chemistry



2022年

8月5日(金) — 9月4日(日)

国立科学博物館 (東京・上野公園)

National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

地球館2階 常設展示室内

開館時間: 午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで。

※会期中は毎日開館いたします。

入館料(税込): 一般・大学生630円(団体510円)

※常設展示入館料のみをご覧ください。※団体は20名以上。

※高校生以下および65歳以上は無料。

[主催] 国立科学博物館

[協力] 気象庁地磁気観測所、国立天文台野辺山宇宙電波観測所、多久市郷土資料館、
東京海洋大学附属図書館、東京大学宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設、
東京農工大学科学博物館、北海道大学総合博物館

多様なモノガタリ
自然史資料が語る
科学技術史・

残して伝える！

科学・技術・産業にまつわる近現代の資料は、古代の資料に比べると保存の意義が低く思われがちですが、資料が残されていなければ、社会に影響を与えた科学・技術の歴史が後世に正しく伝わりません。科学や技術の足跡を示す多種多様な資料を残し伝えてゆくために、国立科学博物館では、資料の保存状況を調査し、戦略的な保存に向けた課題を考えるための研究を推進してきました。本展では、調査の過程で見えてきた資料の保存プロセスや、面白い知見を紹介します。

資料が保存されるまで

Physics and Chemistry

物理・化学系



日本の最初期の鉄道に使われたレール
(英国 Darlington Iron 社製、1870年)

新橋～横浜間(1872年開業)および大阪～神戸間(1874年開業)で使用するために輸入された鍊鉄製60ポンド双頭レール。炭素成分が少ないことから、鋼鉄製のレールが作られる以前の鍊鉄製であることがわかる。



地電気自記器

日本初の電気工学者である志田林三郎が考案した、海底電線に流れる地電流を測定する電気計器で、我が国における電気工学の黎明期の実情を示す数少ない現存資料の一つ。



ノーベル賞の証拠を残す！

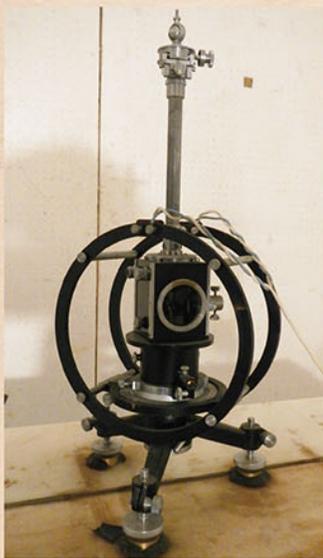
カミオカンデで使用された
光電子増倍管(初期型)

岐阜県の神岡鉱山の地下につくられた巨大な実験装置「カミオカンデ」で使用されたもの。超新星爆発にともなうニュートリノを1987年に初めて観測し、実験終了後も別の装置「カムランド」で再利用された。

科学・技術の歩みを残す

宇宙・地球科学系

Space and Earth Sciences



30cmカセグレ
ンアンテナ

世界一小さな日本で最初のミリ波電波望遠鏡。このアンテナのデータを元に直径6m(1970年、三鷹)、45m(1982年、野辺山)の望遠鏡が建設され、日本の宇宙電波観測が本格的にスタートした。

(所蔵:国立天文台野辺山宇宙電波観測所)



吊り磁石式変化計

1980年代まで日本の地磁気観測を支えてきた測定器。「磁石は北を指す」という性質を利用し、地磁気の変化を測定する。

(所蔵:気象庁地磁気観測所)

資料は語る 多様な知見と系譜

自然史系

Natural History

現存する国内最古の
マリモ標本

1894(明治27)年10月に阿寒湖で郡山甚四郎によって採集されたマリモの押し葉標本。札幌農学校の教授だった宮部金吾が遺したコレクションの中に保存されていた。

(所蔵:北海道大学総合博物館)



明治時代の絵師立花宇一の
描いたハタハタ

明治時代の画工だった立花宇一は「北海道水族写生図」を描いた。魚体のレイアウトや緻密さは現在の図鑑のスタイルに通じるものがあり、過去と現在の水産学や魚類学をつなぐ貴重な資料の一つ。

こうして資料は伝えられてきた、
そして今後はどう残す？

※所蔵が表記されていない資料は、国立科学博物館の所蔵品です。



アクセス

- JR「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線
「上野駅」7番出口から徒歩10分
- 京成電鉄「京成上野駅」正面口から徒歩10分
※当館には駐車場および駐輪場はございません。

お問い合わせ

国立科学博物館ホームページ

<https://www.kahaku.go.jp/>

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

FAX 03-5814-9898



※入館方法の詳細等については、
当館ホームページをご覧ください。